

## 総務産業常任委員会

平成30年1月19日（金）

午前10時15分開 会

○三鬼（和）委員長　それでは、ただいまより総務産業常任委員会を開会いたします。

本日は、先ほど本会議で上程されました議案第1号、尾鷲市事務分掌条例及び尾鷲市議会委員会条例の一部改正について、議案について審査を行いたいと思います。

最初に、市長より御挨拶をお願いします。

○加藤市長　改めまして、おはようございます。

議員の皆様には、本会議に引き続きまして、総務産業常任委員会を開催していただき、まことにありがとうございます。

さて、本委員会に付託されています議案につきましては、議案第1号、尾鷲市事務分掌条例及び尾鷲市議会委員会条例の一部改正についての1議案であります。総務課より提出議案について説明いたさせますので、よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願い申し上げます。

○三鬼（和）委員長　それでは、所管の総務課より、議案について御説明願いたいと思います。

○下村総務課長　それでは、平成30年第1回尾鷲市議会臨時会の提出議案について御説明いたします。

お手元の議案書の1ページをごらん願います。

議案第1号、尾鷲市事務分掌条例及び尾鷲市議会委員会条例の一部改正についてにつきましては、第6次尾鷲市総合計画の計画期間も残り4年となり、本市が掲げる将来都市像、「共に創り 未来につなぐ 誇れるまち おわせ」の実現に向けて、重点政策の推進に適した効率的な事務執行体制を整えるため、平成30年度の組織機構の一部を見直すものであります。

条例改正の詳細について御説明いたします。新旧対照表の1ページをごらん願います。

今回の見直しの内容といたしましては、現在の課の名称を市民にわかりやすい課名にするもので、第1条において、出納室を会計課に、市長公室を政策調整課に、防災危機管理室を防災危機管理課に改めるものであります。

次に、産業部門では、地域産業の基盤である農林水産業の連携を強化し、総合的、一体的な振興を図るため、水産商工食のまち課の水産部門を農林部門と統合し、水産農林課に、商工観光部門は商工観光課に改めるものであります。

第2条の事務分掌では、次のページにまたがりませんが、政策調整課に市政改革担当を配置することにより、総務課より行政改革に関することを移管させ、行政の無駄、むらの徹底排除を図り、限られた財源や人員で専門化、複雑化する行政課題へ対応してまいります。

また、係においても、政策調整係を企画調整係に、人づくり支援係を地域創生係に改めるものであります。

次に、事務分掌にはございませんが、福祉保健課においては、権限移譲や法律改正等により業務が多様化されていることから、健康長寿推進係を健康づくり係に改めるとともに、現在の高齢者・児童係を高齢者福祉係、子育て支援係の2係とし、子育て支援係を福祉保健センターに移転させ、母子保健、子育て支援の充実を図ってまいります。

水産農林課には、水産商工食のまち課から（サ）の水産振興に関することから（セ）の漁業環境の整備に関するところまでを、木のまち推進課から（ア）の農林振興に関するところから（オ）の市有林の経営、管理に関するところまでを移管します。また、（エ）の農林基盤整備に関するところは、改正後の（ケ）基盤整備に関するところに改正させていただきます。

また、4ページになりますが、商工観光課の事務分掌に、（シ）産業資源に関するところ、（ス）観光資源に関するところを新設し、地域産業や地域文化の伝承など、地域資源を活用した本市の魅力を発信するため、おわせ魅力発信担当を配置するものであります。

次に、5ページの尾鷲市議会委員会条例の一部改正ですが、第2条の総務常任委員会の所管課名を、ごらんのように政策調整課、防災危機管理課、水産農林課、商工観光課、会計課にそれぞれ改正するものであります。

以上で提出議案の説明とさせていただきます。よろしく御審議いただき、御承認賜りますようお願い申し上げます。

○三鬼（和）委員長　以上が新たに変わる部分を新旧対照表という形で説明していただきました。一部当委員会における所管の中での事務分掌的に課名が変わるということで、この部分もあわせて改正されるということで説明願いました。

これらについて御質疑ございましたらお願いいたします。

○奥田委員 皆さんないようですので、二、三お聞きしたいと思いますが、まず1点、市長にお伺いしたいんですけど、副市長人事のときもそうでしたが、あのときも、8月23日に臨時会を開いてやられましたけれども、私はそう慌ててしなくても、9月の冒頭でもいいんじゃないかと。ましてや市長は最初の議会ですから、副市長がいなくても市長の言葉でどんどん語ってもらったらいんじゃないかということをお願いしたんですけど。

今回でも、これ、4月からですよ。これ、3月議会でも僕、いいんじゃないかなという気がするんですけど、なぜこの時期に機構改革の変更の議案をわざわざ会期中じゃない、まだ委員会ならわかるんですよ。委員会でもんで、いろいろやって、3月議会冒頭でもいいから、そこで決議ということは幾らでもできると思うんですが、今回も副市長人事と同じように、市長のお考えなのかもしれませんが、なぜこの時期なのか、まず教えてもらえますか。

○加藤市長 奥田委員御指摘のとおり、この時期にという。この後の、一つの処理としまして、4月体制をきちんと確立するためには、まず機構をきちんと明確化すると同時に、その後、どうしてもやっぱり、人の、人事の問題が、結構時間的な余裕が我々としては必要であると思います。そのためにこの時期に、大変お忙しいところまことに恐縮でございますけれども、開催していただいた次第でございます。

○奥田委員 ただ、いろいろな準備はあると思いますけれども、別に私は3月でも、冒頭でもいいんじゃないかなという気はするんですけどね。市長としては、どうしてもやっぱりこの時期じゃないとあかんですか。

○加藤市長 機構改革と同時に、やっぱり人の人事というのは非常に重要だと思っておりますので、慎重かつ細かく、やはりきちんと見ていきたいと思っておりますので、この期間をいただいたわけでございます。

以上でございます。

○奥田委員 ただ、僕は、一言申し上げたいのは、市長の考え方なのでこれ以上申し上げませんが、このことに関しましては。ただ、いろいろ行政改革を進めなあかんと、効率化を進めなあかんという中で、常任委員会は構わんと思うんですよ。ただ、臨時議会となると、やっぱり形式張って議場でやって、形式を踏んでやって、また付託してとって、この前も議会運営委員会、全員協議会も開いて、形式的に順番、上程をやらなあかんじゃないですか。だからそういう、だったら、3月議会で一遍にぼーんと議論は尽くしてやったほうが僕は効率的じゃないかなという気はするんですけど、市長は前もって早く決めたいという意向があるんでしょうけれど

も、ただ、僕は3月でも十分準備は間に合うと思いますし、その方向で庁内は動けばいいわけですから、あれも準備できるわけですから。という気はするんですけど、どうしても準備は必要だという市長の考えなので、それ以上は申し上げませんから。

それと、市長にお伺いしたいのは、提案説明の中で、より一層効果的、効率的な事務執行体制を整えるためということで、本年4月から組織機構を見直したいということなんですけど、僕はこの前も申し上げたように、水産を、水産商工、水産と商工が一緒になっている、6次産業化ということで、1次、2次、3次、1掛ける2掛ける3という中での6次産業化という流れの中で、岩田市長の時代に水産と商工をくっつけたという流れがある中で、また水産を商工と切り離してしまうということに対しては非常に、市長の考え方、プロジェクトチームをつくって、縦割りじゃだめなんだと、横の連携を強めようじゃないかということをやられている中で、僕はちょっと矛盾しているんじゃないかなという気がしてならないんですけど。その辺、再度お聞きしますけど、ちょっと納得いかないんですわ、これ。

○加藤市長　　まず、水産にしても林業にしても農業にしても、それぞれそれぞれが課題があるわけなんです。やはりその辺を、大きくその方向性というのは6次産業化していかないと、やはりその事業というのは私は絶えると思います。それを一気通貫という言葉を行いましたけれども、それがわかりやすいと思いましたが、それを一つの組織の中で見ていくと。

商工観光については、それをフォローする形で、例えばイベントを開催するとか、いろんな、共同で作業するとかというような形で、あくまでも水産事業について、あるいは農林についての事業については、一気通貫でそれぞれが役割を果たしてほしい。その形の中で、水産農林課ということで一つに固めたと。

もう一つは、やっぱり1次産業の事業の振興ということをやっておりますので、やはりここでどれだけ力を発揮しながら事業を発展させていくかという、こういうことで一つの部門にしたというわけでございます。

以上でございます。

○奥田委員　　ただ、市長が今言われた役割分担ということであれば、福祉なんかは今回の、係をきちっとふやしたのかな、そういうことをしたりとか、係を明確にするとか、そういうことが幾らでもできると思うんですよね。

それと、1次産業の発展のためにということをやられていますが、きのう僕、熊野市を調べたら、熊野市も水産・商工振興課なんですよね。水産だけは商工とやっぱり一緒なんですよ。やっぱり水産の1次産業の発展ということ考えた場合に、

水産って特に加工と流通の部分、そこが非常に重要だということで、熊野市なんかでも水産・商工振興課という形でやられているんだと思うんですよ。だから、岩田市長もそういう形でやられたと思うんですよ。

だから、そういうことを考えたら、僕はこれを、また水産と商工を外してしまう、やっぱり部屋も違うわけじゃないですか。今までと一緒にだったら、いろんなイベントでも、じゃ、一緒にやろうかということになれるかもしれませんが、また別にしてしまうとその辺の連携がうまくとれなくなるんじゃないかと。やっぱり役割分担と言われることがあるのなら係を明確にしたらええ話で、これを、僕はまた伊藤市長時代に戻ってしまうということにちょっと違和感を覚えるんですけど。どうですかね。ちょっとわかりにくいんですわ。

○加藤市長　あくまでも水産事業の推進ということであれば、これは1次、2次、3次をトータルで一応見ていくというのが私の考え方です。それを6次産業化すると。1次の生産だけは水産でやって、2次、3次の加工とかそういった、あと流通に至るのを別の部門でやるというわけじゃないと。やっぱり正直言って、まず原点からずっと最後の最後まで、1次、2次、3次、これを含めた形の中でその部門が遂行していくという考え方です。

○奥田委員　幾ら議論しても並行線なのかなと。ただ、市長が言われる、効率的にやるんだ、より効果的にやるんだ、横断的にやるんだという考え方とは、僕はちょっとずれているような気がしてならないんですけど。それはずれていないという認識でいいんですか。

○加藤市長　はっきり申し上げまして、考え方の違いじゃないかなと。私は自分でどうのこうの言うわけじゃないですが、やっぱり事業というのはこうあるべきだという一つの経験、あるいはノウハウから見てこうあるべきだという、そういうことで申し上げておまして、今回もそれを実行していこうということでございますので、御理解いただければと思っております。

○三鬼（和）委員長　奥田委員。一応話をまとめながらお願いします。

○奥田委員　お話はわかりました。考え方に違いがあるということなので、それはそれでいいと思いますけど、ただ、私も執行部にいたときに、伊藤市長の考え方は引き継いで、やっぱり1次産業は1次産業ということで、農林と水産は一緒に商工は分けていましたけど、ただ、やっぱり時代の流れの中で、6次産業化ということがある中で、水産と商工をくっつけていくという流れがあったとも思うものですから、またもとへ戻ってしまうんだなという気がしてならないんですけど、市長の

考え方のなので、そのほうがうまくいくということであるならそれで結構ですけど。

それと、もう一つお伺いしたいんですけど、行政改革が、総務であったのが市長公室、今度政策調整課かな、旧市長公室のほうに戻るような形になるんですけど、これも。これはどうしてなんですか。狙いというのは。

○下村総務課長 増大する行政課題について、限られた人員、財源の中で、やっぱり事業について見直す時期に来ておると。当然、そういったことで完了する事業も必要ではないかという中で、市長公室であれば実施計画等で他課の事業も全部把握できるという中で、現在の市長公室の中で事業全体を見直していくということで、行革も含めて市長公室のほうへ移すという形をとらせていただきました。

○奥田委員 僕もこれについてはええと思うんですよね。やっぱり政策調整ということで、市長公室が企画の部分ですから、そこが事業の見直しをするということになれば、そこがやって行政改革をやるというのは普通だと思うんですけど、ただ、これが岩田市長のときに総務へ移ったじゃないですか。それがうまくいかなかったということなんですか。課長に聞いたほうがいいのか。やっぱりうまくいかなかったんでしょう。

○下村総務課長 私が総務課に配属されたときに、財政課から引き継いだわけでございます。そこで、行財政改革ということで、第4次行財政改革プランを昨年策定して、議会のほうへ御報告させていただきました。

その中で、総務といたしましても、他課の業務、事業内容まで把握できていないということもありましたので、今回市長公室のほうへ移すということでございます。

○三鬼（和）委員長 他にございませんか。

○三鬼（孝）委員 今回の事務分掌条例の改正に関連しまして、今、奥田委員の質疑に市長の答弁がありまして、人事の問題、人事のお話がありましたでしょう。それで、今、これまで年功序列で人事をやっておるんやけれども、日本の一般企業の中で、時代の変革とともに、年功序列の人事は弊害が多いというような話を聞いておりますのですけれども、今回でもこれ、事務分掌条例を改正して、課の名前が新しくなるのですけれども、それを確実に実行していくために、そういう年功序列の人事を見直して、若手のそういう優秀な人材がおると思うのですけれども、そういうのを課長に抜てきするとか、そういう市長の考え方はあるんですか。

○加藤市長 念頭には、年功序列も大事なわけなんですけれども、しかし、やはり人材をどうやって発掘しながらそれに適した仕事をやってもらうかということも、これ、非常に重要な話だと思います。

その中で、年功序列を完全に切り離して、そういう有能な若手の人材をぼーんと抜てきするという考え方は、そういう極端な考え方はありません。多少なりともやはりその辺のところも加味しながら、今回の人事につきましては考えていきたいと思っております。

○三鬼（孝）委員　それで、先ほど課長が市民にわかりやすい課の名称にというような話がありましたけれども、提案理由の説明の中で。これまでの課の名称から今回変わるんですけれども、どの辺の課が市民にわかりやすいというような、そういう認識はどんなのですか。

○下村総務課長　課の名称につきましては時代時代で変わってきておりますが、今回、出納室を会計課、市長公室につきましても政策調整課と、水産商工食のまち課、過去には新産業創造課とかいう名前もありましたし、木のまち推進課につきましても、水産農林課、商工観光課というふうに、わかりやすいかなということで。それと、室を廃止したということでございます。

○三鬼（和）委員長　他にございませんか。ないですか。  
どうぞ。

○奥田委員　今の、室を廃止したということで、市長公室と防災危機管理室、出納室があったので、この三つが課になるということなんですけど、水道部はどうなんですか。どうせのことやったら、水道部も水道課にしたほうがよりわかりやすかったんじゃないかな。なぜあれだけ部なのかという、あると思うんですけど。

○下村総務課長　市長のほうからそういう話もあったんですけど、水道部につきましては、市長部局というわけじゃなく企業会計ということで、病院と水道につきましては会計も違って、別組織になっておるということでそのまま残したということでございます。

○奥田委員　僕もそうかなと思ったんですけど、ただ、熊野市を調べたら、水道課なんですわ。企業会計でもね。課に統一しておるんですよ。だから、今後の課題かもしれませんけど、そのほうがわかりやすいかなという気はするんですけどね。

○加藤市長　先ほど総務課長が申しあげましたように、みんな課にしたらというような感じはあったんですけどね。ただ、会計の都合上、こういう話というので私も納得しましたので、熊野市が水道課になっているというのは初めてお聞きしましたので、おっしゃるとおり、今後の課題として受けとめさせていただきたいと思っております。

○三鬼（和）委員長　他にございませんか。

ほかの委員、ないようですので、私、審査に加わりませんが、食のまちづくりという基本構想も含めまして、残して尊重しておるわけで、市長も海岸部にそういった食の拠点ということを述べられておるんですけど、第1次産業を育てるという中では、先ほど奥田委員からもありましたように、1掛ける2掛ける3で6次産業になっておるということで、製造から販売までを含めた部分で第1次産業を支えていこうということで、特に魚価に関しましては漁師が値段をつけられないというか、生産者が値段をつけられない中で、製造加工、商工部門が値段を左右しておるということでは、こういったようにインフラ整備的な課にしてみると、その辺が置き去りにならないのかなということをお心配するんですけど、連携が大丈夫なのかなと。尾鷲市にとっては、ヒノキの値段も魚の値段も上げていくということは、仲買さんであるとか加工業者さんであるとか、流通のほうで値段が確保できるかによって浜値であるとか原木の値段が変わってくるということがあろうかと思うんですけど、その辺の連携については大丈夫なんですか。

やっぱり市長も言われておるように、尾鷲市の基盤、基幹産業としては大事な部分だと思っております。それが5次総合計画、6次総合計画では一本化になった状態で計画が立てられて、現在も6次総合計画の中で、後期の中では、総合計画をつくった段階では何ら変わらないのに、トップがかわった段階で6次総合計画のやり方を変えていくということになるわけなので、その辺、もう少し市長の考えと解釈というんですか、御説明願いたいなと思っております。

○加藤市長 第6次総合計画の後期編の考え方は、それを踏襲しているという気持ちであります。連携は当然あるわけなんですね。だから、商工観光課なんです。商工に関することについては、食というものに対しては当然中心になることであると私は考えております。

したがいまして、当然、水産の事業を6次産業化するがための、商工としての、何をやるべきなのかという、この連携プレーがなければ、確におっしゃるように、6次産業化にもなりません、これ。でもやっぱり、生産から加工、それに流通というものを、一本化した一つのもので責任を持ってやり遂げて、それをもって、要するに商工がどういう形でその発展に寄与していくかという、そういう考え方を持っているんですよ。だから、基本的には水産。

今後も、木のまち推進課のヒノキというような話になりますと、あれについても、ただただ、生産だけは木のまちでやって、それをもって、商工で2次産業、3次産業を事実上やっていないわけなんですよ。それもやはり1次産業から2次産業、



3次産業にと、もう一気に通貫できちんと販路を開発するまでのところを要するに林業担当者でやらせると。水産も全く同じ考え方です。規模の大小というのは確かにあるかもわからないですけども、それは、商工との連携をもって6次産業化していくかというのはお互いの大きな役割であると、このように考えております。

○三鬼（和）委員長 わかりました。どんな形であれ、どんな名称であれ、市長及び各課長がそれをどう運用していくか、運営していくかが結果につながると思うので、理解したいと思います。

委員の皆さん、ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○三鬼（和）委員長 ないようですので、それでは総務産業常任委員会にかかわる議案第1号、尾鷲市事務分掌条例及び尾鷲市議会委員会条例の一部改正についての審査を終わりたいと思います。執行部の皆さん……。

（発言する者あり）

○三鬼（和）委員長 ちょっと待ってくださいね。

この審査については一応終えたいと思います。

三鬼孝之委員よりその他について質問がございましたので、許可したいと思います。

○三鬼（孝）委員 市長、きょうの中日新聞を見ました。尾鷲市にとって大変衝撃的な記事が出ておるんですけど、中部電力、尾鷲火力18年度停止ということで。

この記事を見ると、3月にも公表する電力供給計画に盛り込む方向で地元との協議に入ったという記事が出ておりますけれども、これは市長、中電から正式にこういうお話はあったんですか。

○加藤市長 あくまでもこれについては聞いておりません。今回の記事については私は聞いておりません。

○三鬼（孝）委員 市長は市長に就任されてから、何回か知りませんが、中電へ訪問はされておると思うんですけども、そのときの話の内容としては、こういう話も一切なかったですか。

○加藤市長 中電に対して何度かコンタクトはあった事実はございます。それは市長に就任して、当然我々の核の一つである中部電力のほうの就任の挨拶、新年の挨拶等々、そういう形で場を持っておりました。

あくまでもこれにつきましては、私は選挙、市長に当選する前から政策の一つとしまして、中部電力の再生ということは候補時代からうたっております。中部電力

の再生ということについては、現状は議員の皆様方が見て当然のことだと思えます。もう全然、要するに稼働率といいますか、それが全然違う。それをうたっているのは、再生可能エネルギーを活用した、そういう中電の再生ということについてぜひ前向きに御検討していただきたいということは常日ごろから、私、この1点だけです。あくまでもお願いでございます。お願いをどれだけするかでもって相手に対するインパクトを与えるということで、それだけ、一応徹底してやってきたということでございます。

○三鬼（孝）委員　わかりました。それで、今後もこの動きが表面化してくるにつれて、当然中部電力から市長にいろいろなお話があると思えますけれども、その都度やっぱり議会のほうへぜひその内容の報告をお願いしたいと思えますので、要請しておきます。

○加藤市長　当然、こういう形にもしなるとすれば、その進捗状況については必ず議会のほうに御報告させていただきます。これはお約束します。

○三鬼（和）委員長　この件につきまして、ほかの委員、ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○三鬼（和）委員長　執行部の皆さん、御苦労さまでございました。

それでは、付託議案の採決を行いたいと思えます。

議案第1号、尾鷲市分掌条例及び尾鷲市議会委員会条例の一部改正について可決すべきとする者の挙手をお願いします。

（挙手全員）

○三鬼（和）委員長　挙手全員。

挙手全員であります。

以上、付託議案につきましては可決すべきものと全会一致でなりました。

この際、委員長報告の際に発言の中でつけ加えることがございましたら。いいですかね、特に。

（「（聴取不能）6次産業」と呼ぶ者あり）

○三鬼（和）委員長　6次産業のことですね。わかりました。その辺ですね。

これで委員会を閉じたいと思えます。

（午前10時47分　閉会）